

自分らしさ、その人らしさ

高三

あなたは「LGBT」について考えたことはありますか？「LGBT」とは、「レズビアン (Lesbian)」「ゲイ (Gay)」「バイセクシャル (Bisexual)」「トランスジェンダー (Transgender)」の頭文字を組み合わせた言葉です。また、「LGBT」に「セクシュアリティを模索中」という意味を持つ「Q (Questioning) クエストヨニング」を加えた「LGBTQ」という新しい表現の仕方もあります。私はこの作文を書くにあたって「LGBT」に関しての本などを読み、調べました。その中で、最も印象に残ったのがトランスジェンダーと性同一性障害についての問題でした。

私が性同一性障害を知ったきっかけは、中学生の頃から好きな歌手の方でした。その方は、「からだの性」が女性、「こころの性」が男性というタイプの性同一性障害でした。男性の服装や髪型をしているので、初めて歌声を聴いたときは、

「少し他の男性よりも声が高いけど、高音がとてもきれいで可愛いな」という印象で、そこまで深く考えたり違和感を覚えたりすることはありませんでした。そんなある日、その方が動画サイトに一本の動画を投稿しました。その動画のタイトルは「生まれてから、」というもので三十分程の動画でした。その内容は、小さな頃から家庭環境が複雑でとても深刻だったということ、自分が性同一性障害と診断されるまでのこと、そして、性同一性障害と分かってから周囲からいじめや差別を受け続けているというものでした。私はこの動画を見て、今まであんなにも笑顔で楽しそうに活動していた裏では、こんなにも残酷な精神的苦痛を抱え続けていたのだと思うと涙が止まりませんでした。確かに、性同一性障害は自分にとって身近なものではありませんでした。それまでの私はテレビやインターネット、人から聞いた話だけですべてを知った気になっていました。多くの人がそれまでの私のように、LGBTや性同一性障害に対する間違った知識をもっていたり、これらに関する誤解がいまだ増え続けていたりするのが現状ではないでしょうか。その現状が多く見受け

られるのが、SNS上での誹謗中傷です。実際に私が好きな歌手の方も、毎日のように心無い言葉や、「活動やめろ」挙げ句の果てには「気持ち悪い、死ね」などの悪意のあるメッセージが届き続けていると話していました。私自身も、SNSで誹謗中傷を多く目にしたことがあり、その度に胸が痛くなりました。SNSだと、顔も、声も、名前も分からない匿名のままなので、好き勝手に物を言えてしまうのが問題なのだと思います。私は、匿名だからといって、何の罪もない方々を誹謗中傷していい理由にはならないと思います。画面の向こう側では、からだの性とところの性との食い違いに悩みながら、周囲の好奇の目にさらされて苦しんでいる人がいます。そういった方々のことを少しずつでも理解していくことが、こういった現状を変えていくために必要なことだと思います。

二〇〇四年には、戸籍に書かれている性別を「ところの性」と同じ性別に変えることが可能な「性同一性障害特例法」が施行され、社会的にも広く理解されはじめています。最近では、LGBTや性同一性障害に関連した本が多く出版される

ようになりました。そういった本を利用するなどして、正しい知識を身に付け、理解を深め、考え方自体から変えていくことが大切です。私自身も、今まで以上にLGBTや性同一性障害に対して理解を深め、悩みや苦痛に寄り添えるような人になりたいと思います。そして、多くの人の多様性を受け入れ、互いに尊重し合えるような社会の成立に貢献できればと思います。